

# 03 子どもの権利を守る

子どもが幸福を実感できる社会は、すべての人にとって幸福な社会といえます。女性平和委員会は、「子どもの権利条約」の精神が活かされた社会を築くため、活動を展開しています。

## 「子どもの権利条約」とは？

「子どもの権利条約」は、1989年11月20日、国連総会において採択されました。子ども(18歳未満)が保護の対象だけでなく、権利の主体であることを明確にうたい、子どもの権利を考える際に重要な「差別のないこと」「子どもにとって最もよいこと」「命が守られ成長すること」「意見を表明し参加できること」の4つの原則が定められています。さまざまな人権条約のなかで最も多い196カ国・地域が、同条約を締約しています(2019年2月現在)。日本は、1994年に批准しました。

## 子どもの笑顔キャンペーン(2019～)

「子どもの権利条約」採択30年、日本の批准25年にあたる2019年、条約の精神がさらに広く浸透することを願い、「子どもの笑顔キャンペーン」をスタートしました。

### アンケート

#### ◆ 2020年～21年 対象:おとな(18歳以上)

集計の結果、親や保護者が心豊かな子育てをするためには、周囲や社会の適切なサポートの必要性が明確になりました。また、2019年に保護者等による体罰禁止の法案が国会で可決・成立したことを「知らなかった」は26.7%、しつげに体罰は「絶対必要」「時には必要」「わからない」との意見が25.7%ありました。



### 子どもの笑顔を広げよう！

子どもたちを幸せにするって、国連がつくった「子どもの権利条約」は、2019年で、採択30年を迎えました。子どもの笑顔のために、私たちに何ができるでしょうか。

(創価学会女性平和委員会は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」に参加しています)

クイズ・アンケート「子どもの笑顔のために」にお答えください。

\*は必ずお答えください。その他は、回答自由です。

Q1. 世界の国・地域の中で「子どもの権利条約」を批准(正式に条約を結ぶこと)していない国はいくつあるでしょうか？(1つ回答)

- A. 1か国
- B. 4か国
- C. 10か国



### 子どもの笑顔を広げよう！

子どもたちを幸せにするって、国連がつくった「子どもの権利条約」は、2019年で、採択30年を迎えました。子どもの笑顔のために、私たちに何ができるでしょうか。



創価学会女性平和委員会は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」に参加しています。

意識啓発用パンフレット「子どもの笑顔を広げよう！」を作成



◀こちらから  
ご覧になれます

「子どもの笑顔を広げよう！クイズ&アンケート」  
(18歳以上対象)

## ◆ 2022年 対象:中高生世代(12歳~17歳)

集計の結果、約4人に1人の子どもが、家や学校などで「意見を聞いてもらえない」と感じることもあるなど、子どもたちのありのままの声が多く寄せられました。

さらに、このアンケートの結果報告を兼ねたフォーラム・講演会を開催し、意識啓発のための映像も制作しました。



◀ こちらからご覧になれます



アンケート「クイズで考える“子どもの権利条約”」  
(中高生世代対象)

## 子どもたちとつくる平和の文化キャンペーン(2014~2016)

「子どもの権利条約」採択より25年、日本が批准してより20年にあたる2014年からの2年間、「子どもたちとつくる平和の文化キャンペーン」を展開。

子どもの幸福のために日々努力を重ねる大人と、子ども自身の主張を発表する「子どもたちとつくる平和の文化フォーラム」を、全国130会場で開催しました。また、同条約の趣旨をわかりやすく解説するビデオ「子どもたちとつくる未来」を制作。前年の2013年には、アンケート「中学生・高校生に聞きました」を実施しました。



「子どもたちとつくる平和の文化フォーラム」

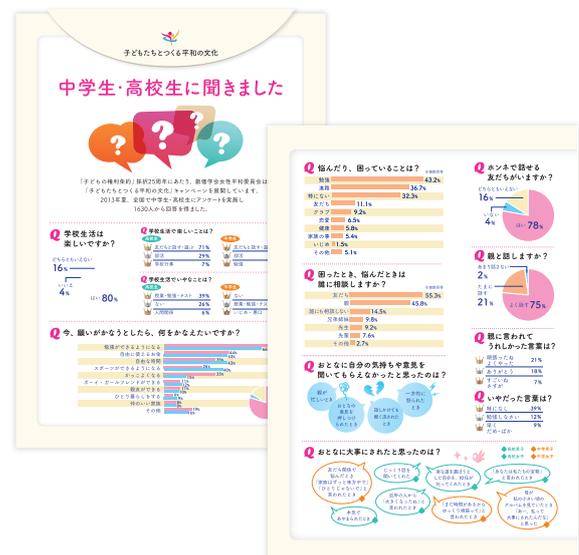


ビデオ「子どもたちとつくる未来」より

©UN Audiovisual Library, Department of Public Information



◀ こちらからご覧になれます



アンケート「中学生・高校生に聞きました」

## 「子どもの権利条約」に関するNGOレポート作成に参加

国連「子どもの権利委員会」による日本における条約の履行状況の審査に際し、NGOレポートの作成に参加してきました(1997年から4回にわたって継続)。  
主に条約の広報(42条)について調査。なかでも、条約の認知に大きな役割を果たしている小中高校の教科書に、条約がどのように記載されているかを継続して調査しました。



こちらからご覧になれます ▶



調査結果をまとめた報告書

## 展示

「子どもの権利条約」採択(1989年)後、いち早く日本の批准を後押しするため、「What're子どもの人権展」を全国展開しました(1991年~)。日本が批准(1994年)してからも、展示活動を通し世論形成に尽力してきました。

### 平和の文化と子ども展

「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の国際10年(2001~2010年)」の折り返し年にあたる2006年、「平和の文化と子ども展」を企画・制作。  
子どもの持つ限りない可能性と、日本と世界の子どもたちを取り巻く課題解決のために何ができるかを考えました。

同展は2006年~2015年まで全国200会場で開催し、のべ120万人が来場しました。また、パネルをポスターサイズにした簡易な展示会も各地で開催(全国1,384会場のべ6万人が鑑賞)しました。



### What're子どもの人権展

1991年8月~2001年

### 世界の子どもとユニセフ展

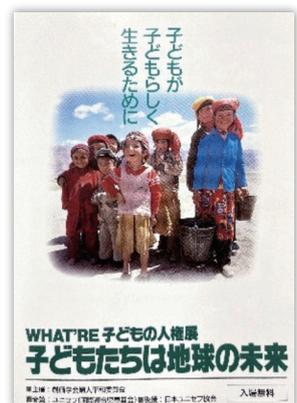
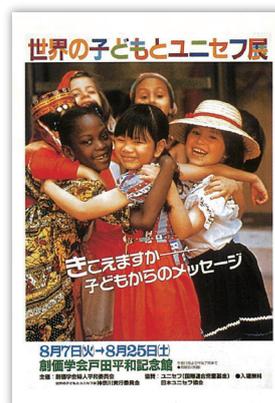
1990年7月~94年

### 21世紀と世界の子ども展

1987年6月~88年

### 母と子の戦争展

1984年5月



## 講演会

子どもの権利の実現のために尽力する識者を招き、講演会を開催しています。

### 【近年開催した主な講演会】 ※講師の所属・肩書は開催当時

- 2023年 「子どもの幸せとこども基本法 こども家庭庁体制」  
日本大学文理学部教授 末富芳氏
- 2019年 「子どもの笑顔のために」  
山梨学院大学教授・子どもの権利条約総合研究所代表 荒牧重人氏
- 2018年 「家庭からはじまる平和の文化」  
児童虐待防止全国ネットワーク理事 高祖常子氏
- 2017年 「子どもたちの笑顔が未来をつくる」  
国連子どもの権利委員会委員 大谷美紀子氏
- 2014年 「子どもは変わる、大人も変わる」  
お茶の水女子大学名誉教授 内田伸子氏
- 2014年 「子どもたちとつくる未来」  
東洋大学社会学部長 森田明美氏

## 子どもが幸福な社会を —— 創価学会の源流

日本が軍国主義の道を進んでいた時代にあって、教育者だった創価学会初代会長・牧口常三郎(1871-1944)は、教育の目的とは、国家のための子どもの育成にあるのではなく、どこまでも“子どもの幸福”にあることを提唱。小学校の校長時代には貧困家庭の子どもに給食を提供するなど、常に子どもに寄り添った教育を自ら実践しました。牧口が目指した、“子どもの幸福”を最優先する理念と実践は、「子どもの権利条約」の精神と響き合うものです。



創価学会初代会長 牧口常三郎



東京市白金尋常小学校第9代校長に就任